

*FirstGlobal* メッセージ

# siesta

2020.10月号 vol.208

発行元：〒540-0012

大阪府中央区谷町1-6-4

天満橋八千代ビル10階

(株)ファーストグローバルコンサルティング

代表取締役

戦略人事コンサルタント 品川典久

TEL 06-6910-3007 FAX 06-6910-3008

Email [shinagawa@1gc.jp](mailto:shinagawa@1gc.jp)

URL <http://www.1gc.jp>

## 今月のトピックス

### 縦社会型野球は学生を育てない

先日、日経新聞で上記のタイトルの記事を見つけました。医師の馬見塚尚孝さんへのインタビュー記事でした。馬見塚先生は野球をはじめとするスポーツ医学が専門で、コーチング学にも造詣が深く、トミー・ジョンなど野球障害に関わる手術に日々携わり、学生野球の指導歴もあります。昨年、夏の甲子園大会岩手県予選の決勝戦で登板しなかった佐々木朗希投手（現・千葉ロッテ）が属していた大船渡高の国保監督と旧知の中で、毎日のように連絡を取り合い、助言もしていたそうです。

さて、本題に戻りますが、馬見塚先生曰く「社会が求める人材が変わってきている。フレデリック・ラルーの組織論に準じていうと、これからの企業は上意下達の『アンバー組織』ではなく、横の関係にある社員たちが自主的に会社の目的達成に向けて取り組む『ティール組織』に進化していく。グーグルやアマゾンを見れば分かる」と述べています。野球の話から、まさかの組織論への展開で、興味を惹かれました。「野球に代表される日本の体育会は典型的なアンバー（順応型）組織だ。上が決めたら下は従うのが当たり前。ハラスメントの巣窟にもなってきた。そこに順応できても、社会に出たら通用しなくなっている」「学生野球では伝統的に規律、尊敬、正義を重視してきた。しかしその上位に、そこに携わる個人が幸福になるという目標が必要だ。ところが野球をしている学生に何かを提案しても『監督が許してくれない』と最初から諦めているケースが非常に多い。」私は小学校から現在に至るまで、いろんなチームに籍を置きましたし、現在の仕事柄、組織の運営のお手伝いをする中で、試行錯誤もしていますが、強く共感しています。私たちが就職した数十年前は、体育会系クラブに属していた人間がもてはやされました。私もそうだったかもしれません。しかし、正直なところ、部活を一生懸命やっていた方がもれなく社会で通用しているか、という残念ながらそうではありません。自分で考えさせる方針のチームに子供さんを小さい時から入れなくてははいけません、そんなチーム、見たことがないです。

## < next >

安倍首相が辞意を表明しました。持病が再発したようです。タラればを言っても仕方ないですが、新型コロナ感染がなく、東京オリンピックなども予定通り開催されていけば、状況も変わっていたでしょうね。新型コロナはいろんなものを変えてしまいましたね。